

調査結果の概要

発育状態

1 平均体格 (表1、図1、別表1参照)

平成17年度の小学校、中学校、高等学校及び幼稚園における児童、生徒、及び幼児の身長、体重及び座高の平均値を年齢別、男女別にみると次のとおりである。

(1) 各年齢間の体格差

身長

男子は、11歳と12歳の間が7.8cmと最も大きく、16歳と17歳の間が0.8cmと最も小さい。女子は、9歳と10歳の間が6.8cmと最も大きく、16歳と17歳の間で最も小さい。

体重

男子は、13歳と14歳の間が6.3kgと最も大きく、16歳と17歳の間が0.1kgと最も小さい。女子は、11歳と12歳の間が5.4kgと最も大きく、16歳と17歳の間で最も小さい。

座高

男子は、11歳と12歳の間が3.7cmと最も大きく、16歳と17歳の間が0.8cmと最も小さい。女子は、11歳と12歳の間が3.3cmと最も大きく、15歳と16歳の間で最も小さい。

調査実施以来最高値を示したのは、男子で身長は16歳、17歳、体重は16歳、座高は16歳、17歳である。

表1 年齢別、男女別体格の平均値と男女差

区分		身長 (cm)			体重 (kg)			座高 (cm)		
		男子	女子	差	男子	女子	差	男子	女子	差
幼稚園	5歳	111.0	110.2	0.8	18.9	18.5	0.4	61.9	61.7	0.2
小学校	6歳	116.8	116.1	0.7	21.7	21.2	0.5	65.1	64.8	0.3
	7歳	122.7	121.7	1.0	24.1	23.8	0.3	67.9	67.4	0.5
	8歳	128.7	127.3	1.4	27.7	26.3	1.4	70.6	70.0	0.6
	9歳	134.1	133.8	0.3	31.1	30.4	0.7	73.0	73.1	0.1
	10歳	138.8	140.6	1.8	34.0	34.4	0.4	75.1	76.2	1.1
	11歳	145.6	147.0	1.4	39.6	39.0	0.6	78.3	79.4	1.1
中学校	12歳	153.4	152.7	0.7	45.2	44.4	0.8	82.0	82.7	0.7
	13歳	160.6	155.7	4.9	49.5	48.3	1.2	85.4	84.2	1.2
	14歳	166.3	157.4	8.9	55.8	50.2	5.6	88.9	85.3	3.6
高等学校	15歳	169.4	158.0	11.4	61.0	52.6	8.4	90.7	85.5	5.2
	16歳	171.5	158.1	13.4	64.1	53.8	10.3	91.8	85.5	6.3
	17歳	172.3	158.1	14.2	64.2	53.8	10.4	92.6	85.9	6.7

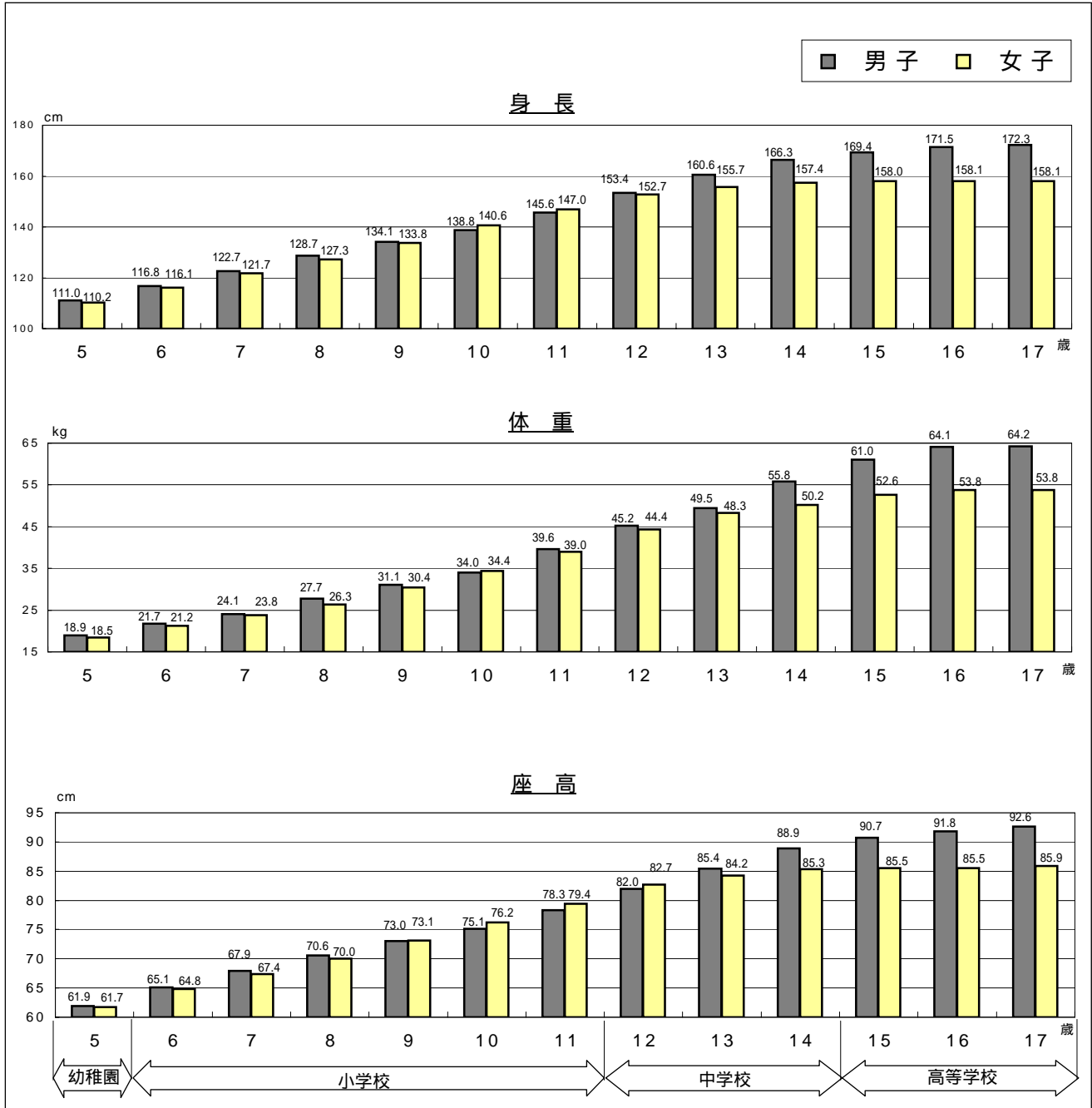
(注)1 「差」は、男子の数値から女子の数値を差し引いたものである。

(注)2 網掛けの部分は調査実施以来最高を示す。

(2) 男女の体格差

女子が男子を上回る発育年齢は、身長では10歳、11歳、体重では10歳、座高では9歳、10歳、11歳、および12歳で、その差の最大は、身長では10歳の1.8cm、体重では10歳の0.4kg、座高では10歳、11歳の1.1cmとなっている。この時期を過ぎると男子が女子を上回り、17歳での差は、身長14.2cm、体重10.4kg、座高6.7cmとなっている。

図1 男女別、年齢別平均体格



2 30年前の昭和50年度の体格との比較 (表2、別表2参照)

平成17年度と30年前の昭和50年度の体格を比較してみると、男子5歳の座高を除き、身長、体重、座高すべてにおいて向上している。

(1) 17歳(高校3年生)の体格の比較

17歳の体格を比較すると、30前に比べて男子は身長が2.5cm高く、体重が4kg多く、座高が2cm高くなっている。女子は身長が1.3cm高く、体重が1kg多く、座高が0.8cm高くなっている。

(2) 体格差の最も大きい年齢

30年前と比べ最も差の大きい年齢は、男子は身長13歳、体重16歳、座高13歳、17歳となっている。女子は身長12歳、体重12歳、座高12歳となっている。

表2 30年前の体格との比較

区 分	身 長 (cm)			体 重 (kg)			座 高 (cm)				
	平 成 17年度	昭 和 50年度	差	平 成 17年度	昭 和 50年度	差	平 成 17年度	昭 和 50年度	差		
男 子	幼稚園	5歳	111.0	110.1	0.9	18.9	18.7	0.2	61.9	61.9	-
	小 学 校	6歳	116.8	115.5	1.3	21.7	20.6	1.1	65.1	64.7	0.4
		7歳	122.7	121.6	1.1	24.1	23.1	1.0	67.9	67.5	0.4
		8歳	128.7	126.6	2.1	27.7	25.7	2.0	70.6	69.8	0.8
		9歳	134.1	132.3	1.8	31.1	28.9	2.2	73.0	72.2	0.8
		10歳	138.8	137.2	1.6	34.0	31.9	2.1	75.1	74.3	0.8
		11歳	145.6	142.6	3.0	39.6	35.7	3.9	78.3	76.5	1.8
	中 学 校	12歳	153.4	149.9	3.5	45.2	40.9	4.3	82.0	80.1	1.9
		13歳	160.6	157.0	3.6	49.5	46.4	3.1	85.4	83.4	2.0
		14歳	166.3	163.2	3.1	55.8	51.8	4.0	88.9	87.0	1.9
	高 等 学 校	15歳	169.4	167.3	2.1	61.0	56.6	4.4	90.7	89.2	1.5
		16歳	171.5	168.7	2.8	64.1	58.6	5.5	91.8	90.1	1.7
		17歳	172.3	169.8	2.5	64.2	60.2	4.0	92.6	90.6	2.0
女 子	幼稚園	5歳	110.2	109.4	0.8	18.5	18.4	0.1	61.7	61.5	0.2
	小 学 校	6歳	116.1	114.9	1.2	21.2	20.2	1.0	64.8	64.3	0.5
		7歳	121.7	120.9	0.8	23.8	22.6	1.2	67.4	66.7	0.7
		8歳	127.3	126.0	1.3	26.3	25.3	1.0	70.0	69.4	0.6
		9歳	133.8	132.6	1.2	30.4	28.8	1.6	73.1	72.2	0.9
		10歳	140.6	138.8	1.8	34.4	32.6	1.8	76.2	75.2	1.0
		11歳	147.0	145.4	1.6	39.0	37.5	1.5	79.4	78.5	0.9
	中 学 校	12歳	152.7	150.6	2.1	44.4	42.3	2.1	82.7	81.3	1.4
		13歳	155.7	154.1	1.6	48.3	46.5	1.8	84.2	83.4	0.8
		14歳	157.4	155.6	1.8	50.2	49.5	0.7	85.3	84.4	0.9
	高 等 学 校	15歳	158.0	156.4	1.6	52.6	51.4	1.2	85.5	85.0	0.5
		16歳	158.1	156.5	1.6	53.8	52.5	1.3	85.5	84.7	0.8
		17歳	158.1	156.8	1.3	53.8	52.8	1.0	85.9	85.1	0.8

3 30年前の発育量との比較 (表3、図2、別表5参照)

5歳から17歳まで12年間の総発育量と年間発育量の最も大きい年齢について、今年度調査の17歳(昭和62年度生まれ)と30年前調査の17歳(昭和32年度生まれ)を比較すると、次のとおりである。

(1) 総発育量の比較

今年度17歳の総発育量を30年前と比較すると、身長では男子0.1cm増、女子1.5cm減、体重では男子3.0kg増、女子0.3kg減、座高では男子1.9cm増、女子0.6cm増となっている。

(2) 年間発育量の最も大きい年齢

今年度17歳をみると、男子は身長は12歳時、体重は11歳、12歳時、座高は5歳時の年間発育量が最も大きく、女子は身長10歳時、体重10歳時、座高5歳時の年間発育量が最も大きい。

一方、30年前の17歳は、男子は身長、体重、座高ともに13歳時の年間発育量が最も大きく、女子は身長、体重、座高ともに10歳時の年間発育量が最も大きい。

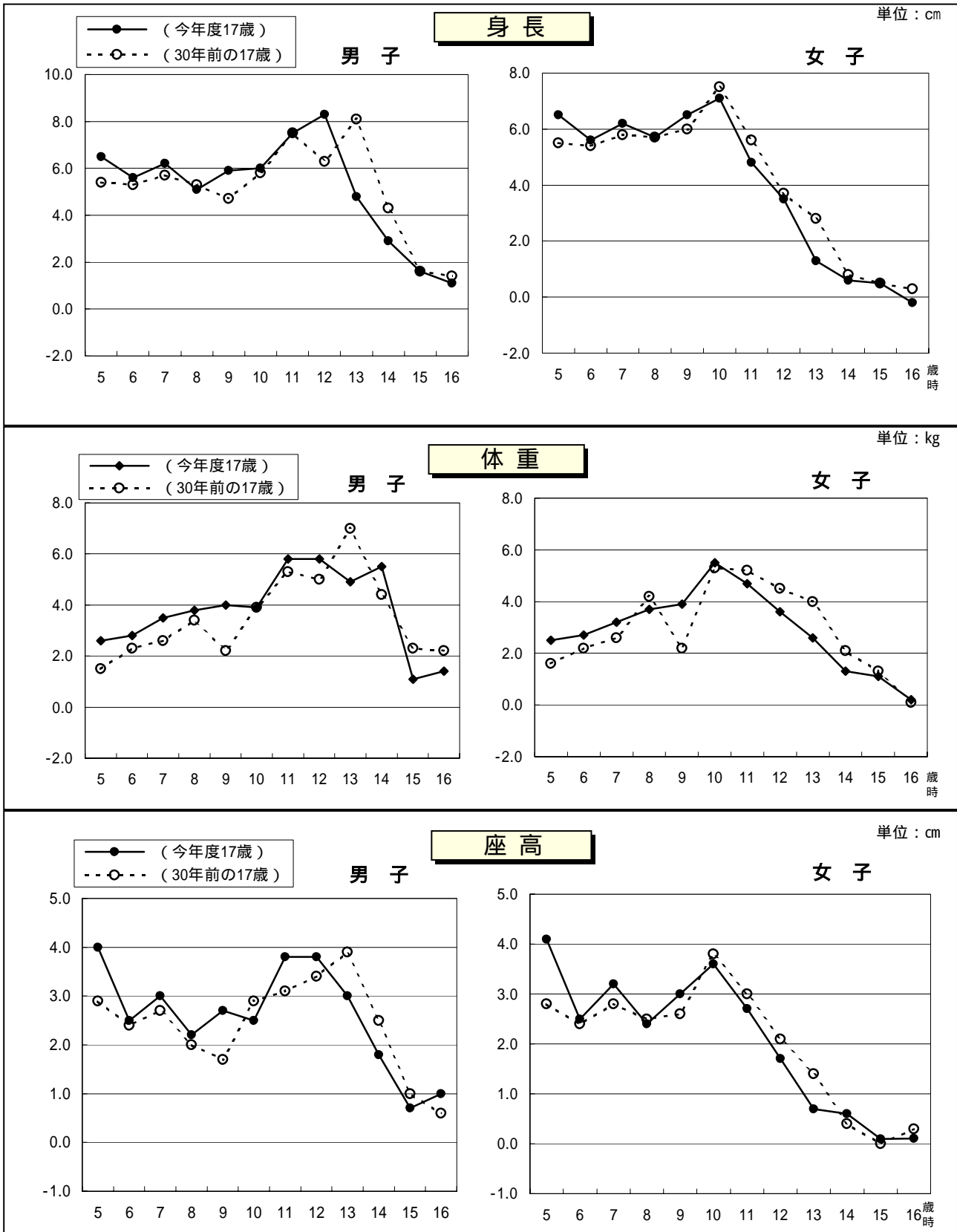
表3 年次別、男女別、発育量の比較

区 分	男 子				女 子				
	5歳時の体格	17歳時の体格	総発育量	年間発育量最大の年齢	5歳時の体格	17歳時の体格	総発育量	年間発育量最大の年齢	
身長 cm	昭和 32 年度生まれ	108.4	169.8	61.4	13歳時	107.2	156.8	49.6	10歳時
	42	110.5	171.5	61.0	12歳時	109.5	158.1	48.6	10歳時
	52	110.7	171.1	60.4	12歳時	110.4	158.5	48.1	9歳時
	57	111.1	171.5	60.4	12歳時	110.5	158.7	48.2	10歳時
	62	110.8	172.3	61.5	12歳時	110.0	158.1	48.1	10歳時
体 重 kg	昭和 32 年度生まれ	18.1	60.2	42.1	13歳時	17.5	52.8	35.3	10歳時
	42	18.9	63.1	44.2	12歳時	18.5	53.7	35.2	11歳時
	52	18.9	63.5	44.6	13歳時	18.7	53.2	34.5	10歳時
	57	19.2	63.5	44.3	11歳時	18.9	53.7	34.8	10歳時
	62	19.1	64.2	45.1	11歳、12歳時	18.8	53.8	35.0	10歳時
座 高 cm	昭和 32 年度生まれ	61.5	90.6	29.1	13歳時	61.0	85.1	24.1	10歳時
	42	62.8	91.8	29.0	12歳時	61.6	85.7	24.1	9歳、11歳時
	52	62.3	91.7	29.4	12歳時	62.2	85.6	23.4	10歳時
	57	62.5	92.0	29.5	11歳、12歳時	62.1	85.6	23.5	10歳時
	62	61.6	92.6	31.0	5歳時	61.2	85.9	24.7	5歳時

(注)1 総発育量とは、例えば32年度生まれの総発育量は、32年度生まれの「17歳時の体格」から「5歳時の体格」を引いたものである。

(注)2 出生年度については、例えば、「昭和32年度生まれ」とは、32年4月2日から翌年4月1日までに生まれた者をいう。

図2 年間発育量の30年前との比較



(注) 年間発育量とは、例えば、昭和62年度生まれの「5歳時」の年間発育量は、平成6年度調査6歳の者の体格から前年度調査5歳の者の体格を引いたものである。

健康状態

1 疾病・異常の被患率状況（表4、別表3参照）

平成17年度の定期健康診断における児童、生徒及び幼児の各疾病・異常の被患率は、男女とも「う歯の者(処置完了者 + 未処置歯のある者)」が各学校種とも第1位を占め、被患率も幼稚園が58.86%、小学校73.46%、中学校69.17%、高等学校73.99%と他に比較して圧倒的に高くなっている。

第2位は各学校種とも「裸眼視力1.0未満の者」で、被患率は幼稚園が10.65%、小学校28.49%、中学校56.11%、高等学校が64.07%となっている。

表4 主な疾病・異常被患率

順位	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	区分	%	区分	%	区分	%	区分	%
1	う歯	58.86	う歯	73.46	う歯	69.17	う歯	73.99
2	裸眼視力1.0未満	10.65	裸眼視力1.0未満	28.49	裸眼視力1.0未満	56.11	裸眼視力1.0未満	64.07
3	その他の歯疾患	2.55	その他の歯疾患	12.34	その他の歯疾患	9.99	その他の歯疾患	6.53
4	その他の眼疾患・異常	0.77	鼻・副鼻腔疾患	9.15	鼻・副鼻腔疾患	9.56	鼻・副鼻腔疾患	4.06
5	伝染性皮膚疾患	0.70	耳疾患	3.93	その他の眼疾患・異常	5.06	心電図異常	2.48

2 主な疾病・異常被患率の推移（別表3・4参照）

(1) 肥満傾向

平成17年度の「肥満傾向」の者(学校医から肥満傾向と判定された者)の割合は、幼稚園が0.17%、小学校が1.05%、中学校が1.05%、高等学校が1.81%となっており、幼稚園、小学校、中学校において前年度より減少している。

(2) 鼻・副鼻腔疾患

平成17年度の「鼻・副鼻腔疾患」(蓄膿症、アレルギー性鼻炎等)の被患率は、幼稚園が0.00%、小学校が9.15%、中学校が9.56%、高等学校が4.06%となっており、幼稚園においてのみ前年度より減少している。

(3) 寄生虫卵保有(幼稚園及び小学校のみ)

平成17年度の「寄生虫卵保有者」の割合は、幼稚園が0.10%、小学校が1.79%となっており、幼稚園においてのみ前年度より減少している。

(4) 心電図異常(6歳、12歳及び15歳時のみ)

平成17年度の「心電図異常」の者の割合は、6歳が1.56%、12歳が2.70%、17歳が2.48%となっており、中学校・高等学校において前年度より減少している。

(5) ぜん息

平成17年度の「ぜん息」の被患率は、幼稚園が0.50%、小学校が1.89%、中学校が1.34%、高等学校が0.49%となっており、幼稚園、中学校、高等学校において前年度より減少している。

(6) う 歯 (表5参照)

「う歯」の被患率について過去の推移をみると、すべての各学校種別において減少傾向にある。また、平成17年度の被患率を平成8年度と比べると、幼稚園で16.15ポイント、小学校で14.26ポイント、中学校で21.33ポイント、高等学校で21.03ポイントそれぞれ減少している。

表5 う歯の処置完了状況等の推移

単位: %

区 分	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	
幼稚園	計	75.01	79.86	69.62	60.71	69.96	66.51	59.09	59.49	66.67	58.86
	処置完了	26.17	32.50	26.62	26.02	30.84	29.05	20.82	20.40	25.82	24.49
	未処置	48.84	47.36	42.99	34.69	39.12	37.46	38.27	39.08	40.84	34.37
小学校	計	87.72	88.74	86.32	86.26	80.02	81.18	77.05	77.23	73.25	73.46
	処置完了	36.47	35.58	36.93	39.14	34.16	36.84	33.20	35.15	32.64	32.78
	未処置	51.24	53.16	49.39	47.11	45.85	44.34	43.84	42.08	40.60	40.67
中学校	計	90.50	88.15	88.83	84.25	81.30	82.04	78.27	74.61	78.09	69.17
	処置完了	47.00	47.34	46.48	48.87	44.21	45.12	42.00	40.10	43.81	37.98
	未処置	43.50	40.80	42.35	35.38	37.08	36.92	36.27	34.52	34.29	31.19
高等学校	計	95.02	93.59	89.12	91.88	88.08	88.40	85.93	83.15	78.29	73.99
	処置完了	49.69	53.01	47.22	51.30	51.16	49.40	49.52	51.54	44.38	43.53
	未処置	45.33	40.57	41.91	40.59	36.93	39.00	36.41	31.61	33.91	30.46

(注) 四捨五入の関係で項目計と内訳が一致しないことがある。

(7) 裸眼視力 (表6参照)

「裸眼視力1.0未満の者」の被患率についての過去の推移をみると、幼稚園・小学校・中学校・高等学校でそれぞれ増減を繰り返している。

また、平成17年度の被患率を平成8年度と比べると、幼稚園で17.02ポイント減少、小学校で0.07ポイント増加、中学校で0.42ポイント減少、高等学校で10.95ポイント減少している。

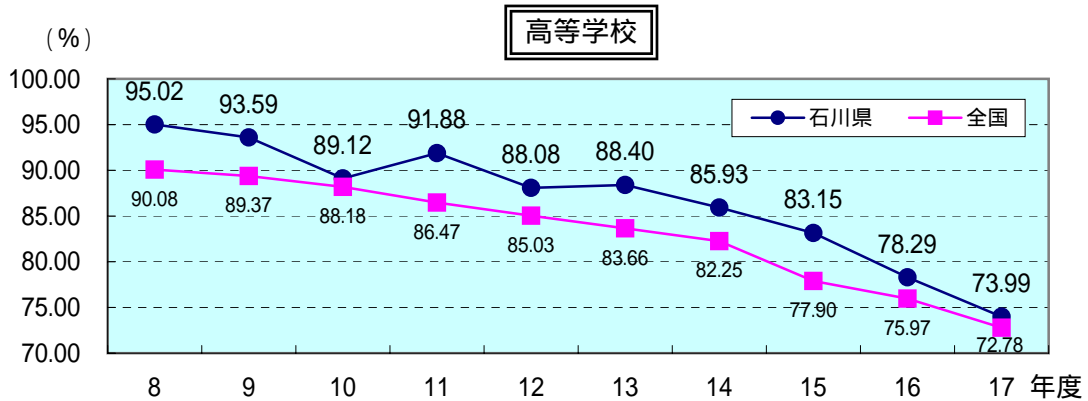
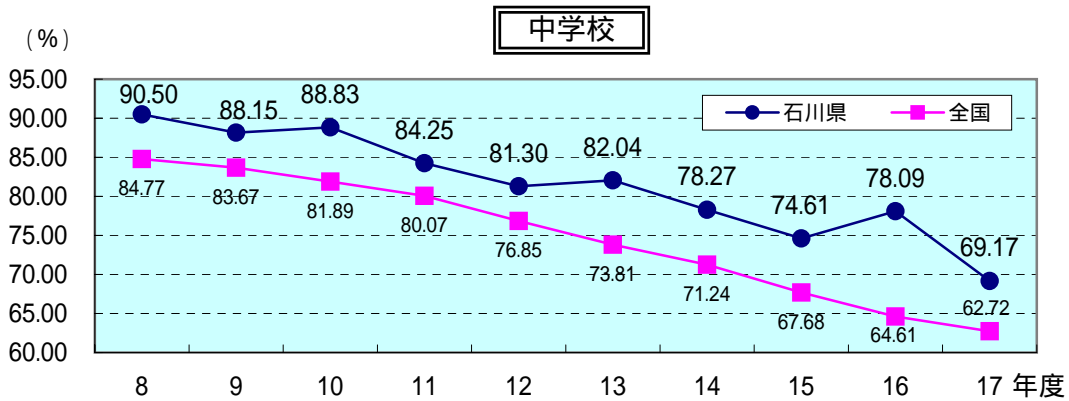
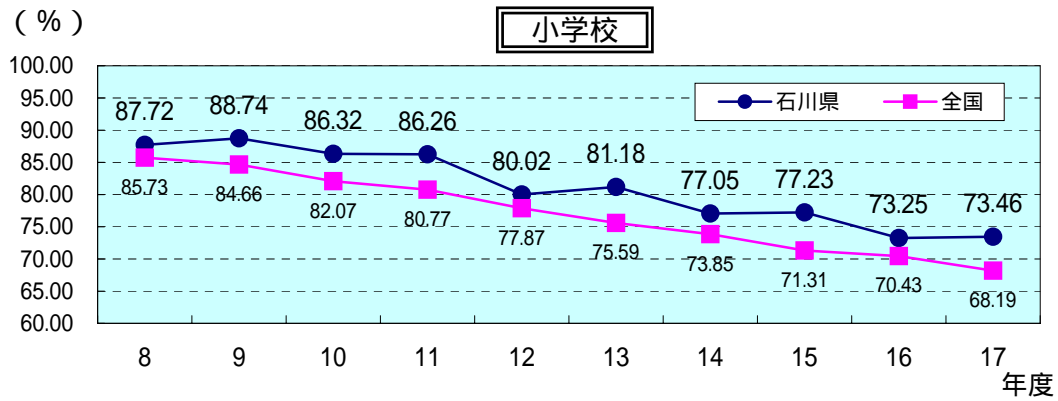
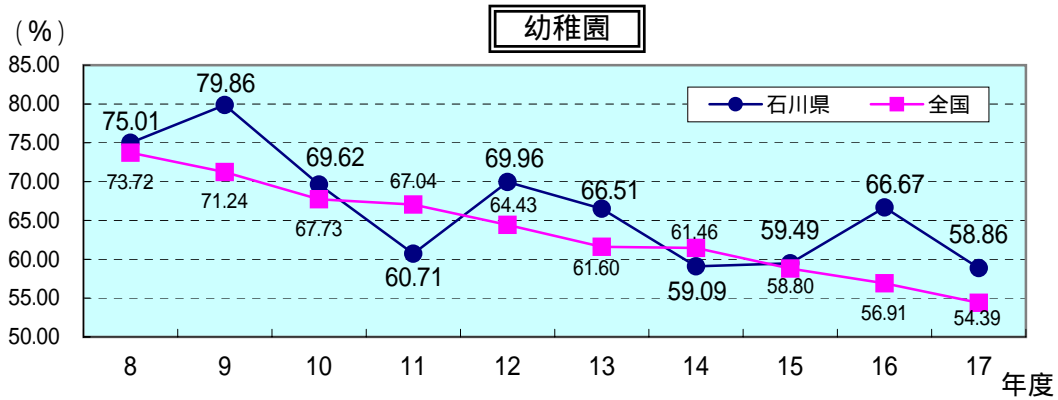
表6 裸眼視力1.0未満の者の推移

単位: %

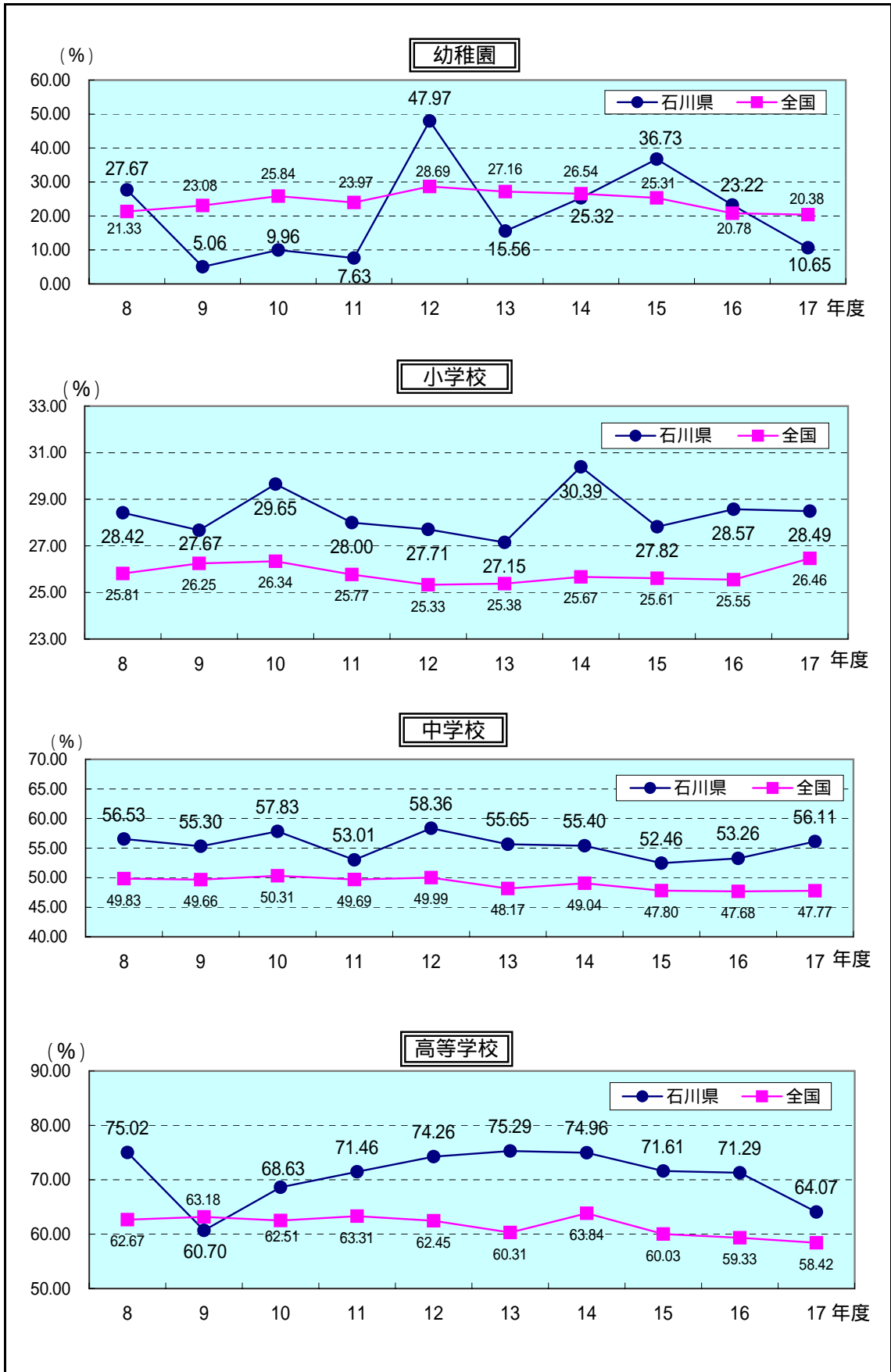
区 分	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	
幼稚園	計	27.67	5.06	9.96	7.63	47.97	15.56	25.32	36.73	23.22	10.65
	1.0未満0.7以上	24.20	3.26	6.67	5.64	31.20	11.66	15.62	24.40	14.66	6.63
	0.7未満0.3以上	3.02	1.80	2.97	1.90	15.33	3.65	8.58	12.33	7.91	3.65
	0.3未満	0.45	-	0.32	0.09	1.43	0.25	1.12	-	0.66	0.37
小学校	計	28.42	27.67	29.65	28.00	27.71	27.15	30.39	27.82	28.57	28.49
	1.0未満0.7以上	10.60	10.49	11.78	10.50	10.70	10.37	11.94	10.70	11.49	10.79
	0.7未満0.3以上	11.00	11.07	11.01	10.86	10.84	10.47	11.83	11.50	11.24	11.65
	0.3未満	6.81	6.11	6.86	6.65	6.17	6.31	6.62	5.62	5.84	6.05
中学校	計	56.53	55.30	57.83	53.01	58.36	55.65	55.40	52.46	53.26	56.11
	1.0未満0.7以上	12.38	11.05	10.77	9.32	11.36	11.13	9.83	10.22	9.75	10.28
	0.7未満0.3以上	17.76	18.66	18.30	18.75	20.32	20.87	17.49	19.37	16.91	18.61
	0.3未満	26.39	25.59	28.75	24.93	26.68	23.65	28.08	22.87	26.60	27.22
高等学校	計	75.02	60.70	68.63	71.46	74.26	75.29	74.96	71.61	71.29	64.07
	1.0未満0.7以上	14.19	9.60	10.39	9.56	10.04	8.31	8.96	9.67	8.90	19.18
	0.7未満0.3以上	18.95	16.53	15.85	15.03	15.18	14.48	13.79	16.30	13.74	16.58
	0.3未満	41.88	34.58	42.39	46.87	49.05	52.50	52.20	45.63	48.64	28.31

(注) 四捨五入の関係で項目計と内訳が一致しないことがある。

う歯の被患率の推移



裸眼視力1.0未満の者の推移



全国値との比較

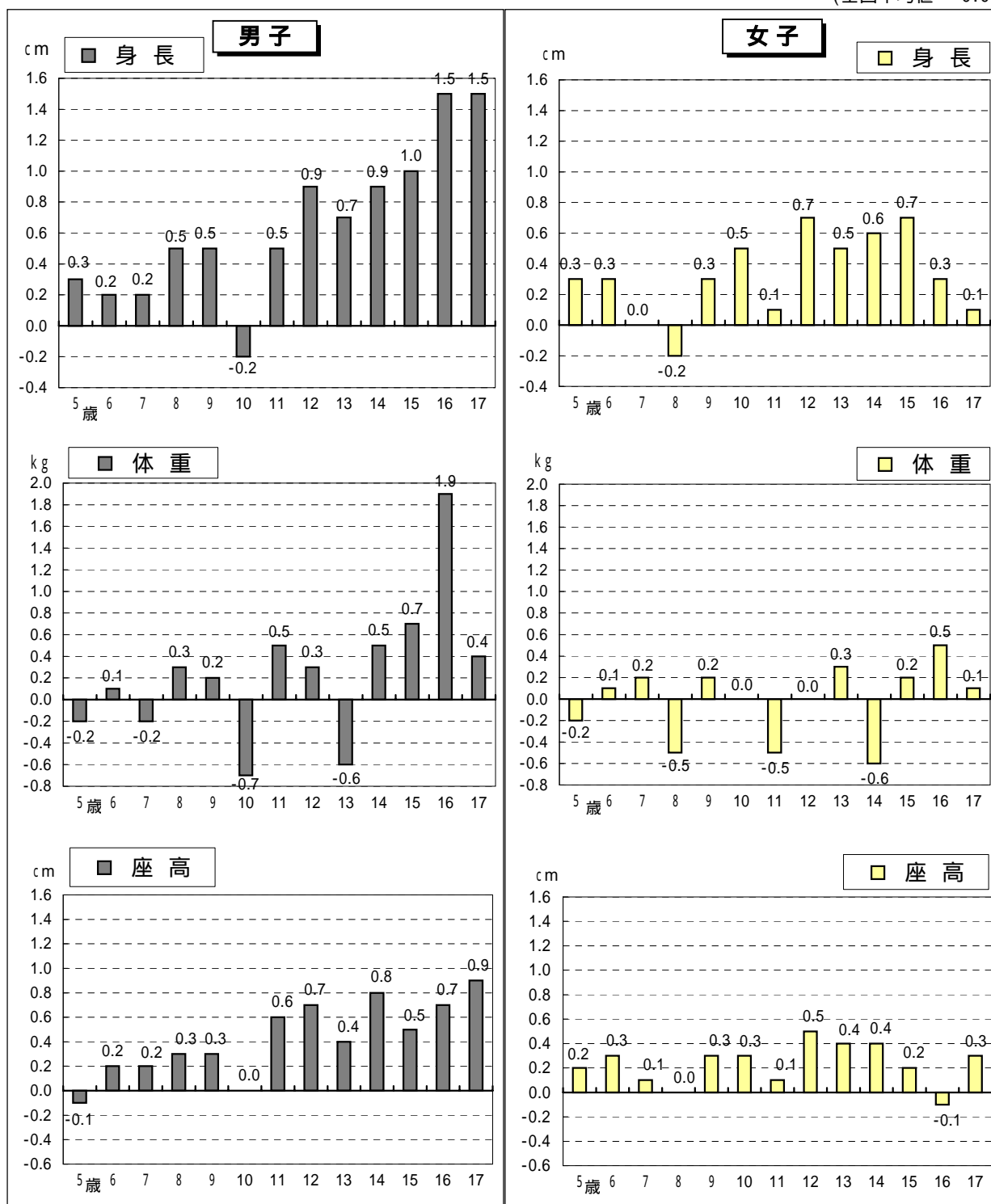
1 発育状態

(1) 全国平均体格との差 (図3、別表1参照)

身長では、男子が10歳を除く全年齢、女子が7歳、8歳を除く全年齢で全国平均値を上回っている。体重では、男子が5歳、7歳、10歳、及び13歳を除く全年齢で、女子が5歳、8歳、10歳、11歳、12歳、及び14歳を除く全年齢で全国平均値を上回っている。座高では、男子が5歳、10歳、女子は8歳、16歳を除く全年齢で全国平均値を上回っている。

図3 男女別、年齢別体格の全国平均値との差

(全国平均値 = 0.0)



(2) 総発育量の全国平均値との比較 (表7参照)

17歳の総発育量を比較すると、男子は身長1.6cm、体重0.6kg、座高は1.7cm全国平均値を上回っている。女子は身長0.1cm、体重0.3kg、座高は1.0cm全国平均値を上回っている。

表7 男女別、総発育量の全国平均値との比較

区分	男子 (62年度生まれ)			女子 (62年度生まれ)			
	5歳時の体格 A	17歳時の体格 B	総発育量 B - A	5歳時の体格 A	17歳時の体格 B	総発育量 B - A	
身長 cm	石川県	110.8	172.3	61.5	110.0	158.1	48.1
	全国	110.9	170.8	59.9	110.0	158.0	48.0
体重 kg	石川県	19.1	64.2	45.1	18.8	53.8	35.0
	全国	19.4	63.8	44.4	19.0	53.7	34.7
座高 cm	石川県	61.6	92.6	31.0	61.2	85.9	24.7
	全国	62.4	91.7	29.3	61.9	85.6	23.7

(3) 17歳の身長の全国平均値との比較 (図6、図7参照)

17歳の身長を全国値と比較すると、石川県は男女ともに全国平均値を上回っている。また、北海道から近畿地方は全国平均値を上回る場所が多く、中国、四国及び九州地方は下回る場所が多い傾向がある。

2 健康状態

主な疾病・異常被患率の全国平均値との比較 (図4・5、別表3参照)

「う歯」の被患率では、幼稚園が4.47ポイント、小学校が5.27ポイント、中学校が6.45ポイント、高等学校が1.21ポイントそれぞれ全国平均値を上回っている。

「裸眼視力1.0未満の者」の被患率では、小学校が2.03ポイント、中学校が8.34ポイント、高等学校が5.65ポイントそれぞれ全国平均値を上回り、幼稚園が9.73ポイント全国平均値を下回っている。

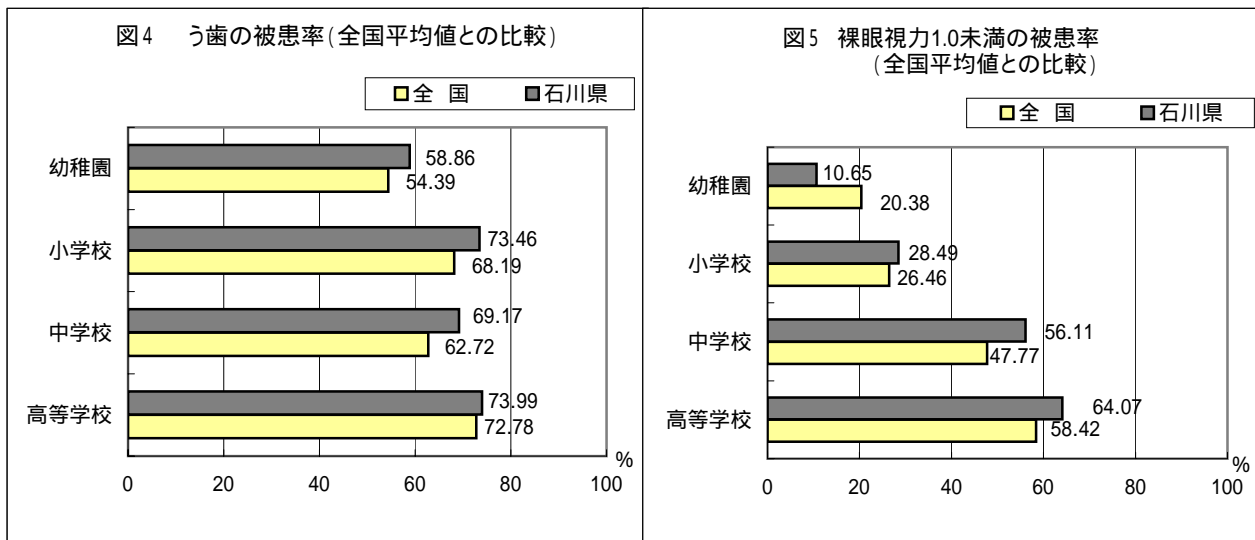


図6 17歳男女平均値の推移

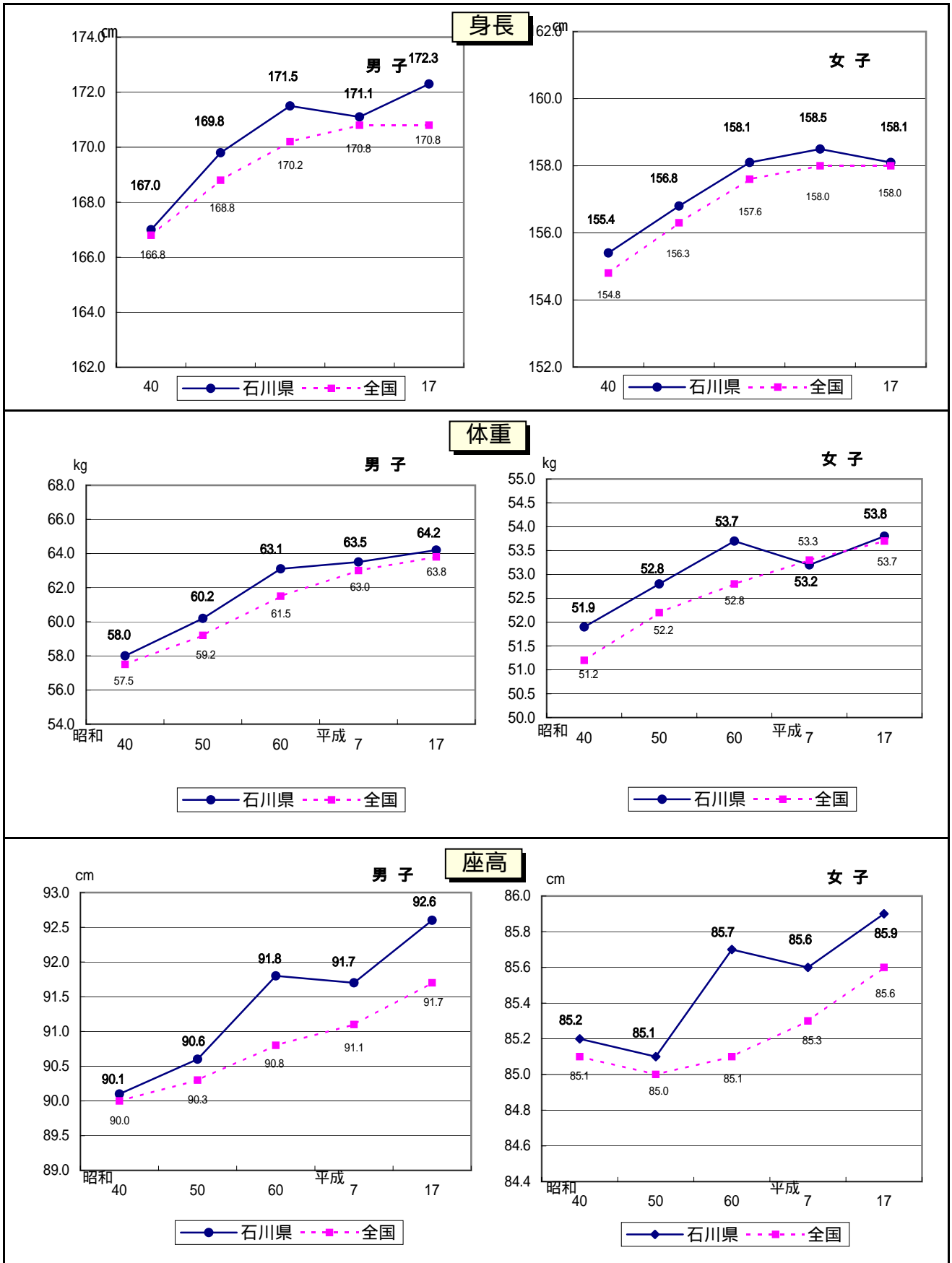
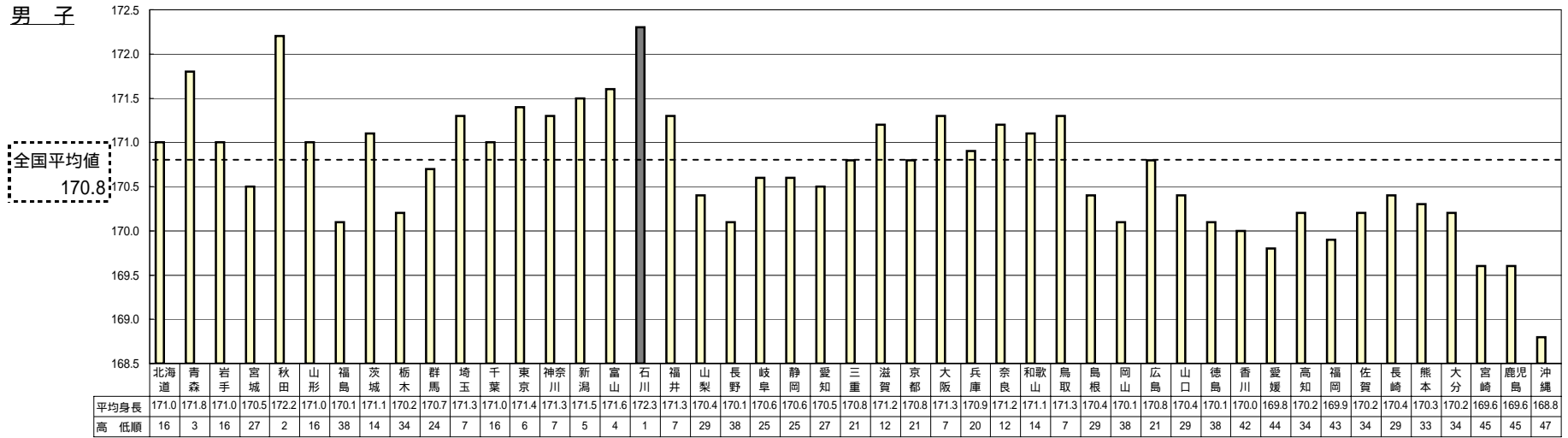


図7 都道府県別17歳の平均身長

単位：cm

男子



女子

